

県産木第 13 号
平成 26 年 12 月 24 日

県森林政策課長 様

県産木材活用推進協議会
会長 野瀬 宇一郎



平成 26 年度「びわ湖材」利用技術研修会の開催について

拝啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当協議会の業務につきましては、日頃より格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当協議会におきましては、びわ湖材産地証明制度の普及による県産材利用拡大に取り組んでいるところです。

このため当制度の目的であります地産地消によるびわ湖材の需要拡大に向けた技術研修会を下記により開催しますので、何かとご多用とは存じますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）
13 時 30 分～16 時 15 分（13 時から受付開始）
2. 場所：滋賀県庁北新館 3 階 中会議室（大津市京町四丁目 1-1）
3. 主催：県産木材活用推進協議会
4. 講演
「滋賀県産スギ材の横架材への利用実践例とその課題について」
（講師）宮村太設計工房 一級建築士 宮村 太 氏

「スギの横架材利用を促進する技術開発～高強度梁仕口
Tajima TAPOS（但馬テイポス）ほか～」
（講師）兵庫県立農林水産技術総合センター
森林林業技術センター木材利用部 主任研究員 永井 智 氏
* 演題は変更する場合があります。
5. 費用：無料
6. 申込み
平成 27 年 1 月 20 日までに下記あて電話・FAX（別紙）にてお申込み願います。
7. 申込み・問い合わせ先
〒520-0801 大津市におの浜 4 丁目 1-20
県産木材活用推進協議会（事務局）
滋賀県木材協会 TEL 077-524-3827 FAX 077-522-4258
又は
滋賀県森林組合連合会 TEL 077-522-4658 FAX 077-524-7885

* 御来場にあたっては、公共交通機関をご利用ください。

県産木材活用推進協議会事務局あて

平成26年度「びわ湖材」利用技術研修会 参加申込み	
ご住所	
所属機関（会社名）名	
参加者氏名	
参加者氏名	
参加者氏名	
電話番号	

*TEL・FAXのいずれかでお申し込みください。

*応募にかかる個人情報については、当研修会の開催業務のほかには使用しません。

申込み先

〒520-0801 大津市におの浜4丁目1-20

県産木材活用推進協議会（事務局）

滋賀県木材協会 TEL077-524-3827 FAX077-522-4258

又は

滋賀県森林組合連合会 TEL077-522-4658 FAX077-524-7885

主催：県産木材活用推進協議会

平成26年度 びわ湖材利用技術研修会

《 趣 旨 》

滋賀県においては、他県材との差別化のためびわ湖材産地証明制度を平成18年度に定めて、各種事業に取り組んでいるところである。

びわ湖材産地証明制度においては、合法性が確認できる県内の森林から伐採された原木とその原木を県内で加工した製材品等を「びわ湖材」と定義して、認定された県内の木材業者および製材業者（びわ湖材取扱認定事業体）が自己責任により分別および表示管理等を行っている。また、県産木材活用推進協議会は本制度を運営するとともにその普及を図り、県産材の利用拡大と地産地消を推進している。

県産材については、平成25年では間伐材を中心に62千 m^3 が生産されており、そのうち「びわ湖材」の生産量は21.4千 m^3 余りであるが、その値に大きな伸びは見られない。

「びわ湖材」の利用は、県内公共工事向け土木および建築資材等向けの製品と、助成制度を活用した新設住宅向けの部材が主である。近年、公共建築物等での構造材等としても利用されているが、県内には大規模な製材工場がなく、人工乾燥施設の数も少ない状況である。

このため、県内需要の拡大を図るにあたり、関係者が他府県事例などから木材の加工技術等に関する知識を深め、需要者のニーズなどを把握して、「びわ湖材」を有効利用するために研修会を開催する。

開 催 要 領

横架材にスギを活かす技術を学ぶ

日時：平成27年1月28日（水） 13：30～16：15

場所：滋賀県庁北新館3階中会議室

対象：びわ湖材取扱認定事業体、建築業者、設計士、市町職員、県職員等 60名程度

講師：講演① 宮村太設計工房 一級建築士 宮村 太 氏

講演② 兵庫県立農林水産技術総合センター

森林林業技術センター 木材利用部 主任研究員 永井 智 氏

● 講演①

演題：滋賀県産スギ材の横架材への利用実践例とその課題について

【内容】

これまで住宅における梁や桁などの横架材は、ベイマツを使うことが多かった。ようやく資源として活用できるようになった地元の人工林から木材が生産されるようになり、滋賀県においても地産地消の観点から一部の工務店等では、スギの横架材が採用されるようになってきた。その利用状況を把握したうえで、さらに利用拡大していくために、その過程で生じる課題を学ぶ。

● 講演②

演題：スギの横架材利用を促進する技術開発～高強度梁仕口 Tajima TAPOS (但馬テイポス) ほか～

【内容】

木造軸組工法住宅の梁・桁において、スギ材は柔らかく接合強度が弱いとのイメージがあったが、プレカットに際して梁-梁仕口の形状を工夫することで、仕口の強度が飛躍的に高くなることがわかった。その概要および開発の目的や経緯、その普及により期待される効果などを学ぶ。

その他、横架材の構造設計に有効なスパン表ソフト「簡単部材算定」や、横架材のたわみにくさ（曲げヤング係数）を現場で簡易・正確に測定するシステム「WoodFFT」など、兵庫県で進められている技術開発の概要を学び、製材品に求められる強度や強度測定の意義を把握する。

◆ スケジュール（進行時間には多少変動あり）

あいさつ（10分）	13：30～13：40
講演①（50分）	13：40～14：30
休憩（10分）	14：30～14：40
講演②（70分）	14：40～15：50
質疑応答（25分）	15：50～16：15